



光和

冬休み号
練馬区立光和 小学校
令和2年12月25日

光和小
携帯サイト



感謝の気持ち

校長 矢島 直行

今年も残すところ1週間となりました。今年は、皆さんにとってどのような年でしたでしょうか。学校は、新型コロナウイルスの影響で臨時休業や行事の中止、教育活動の制約、新しい生活様式など、これまでにはなかったことがいろいろありましたが、感染拡大防止に努めながら今できる教育活動に取り組んできました。

そのような中、ICT機器を活用した新たな取り組みもありました。オンラインによる全校朝会です。これまでの全校朝会は、校庭や体育館で子供たちの前で話をしていました。子供たちの顔を直接見ながら話すことに慣れていまずと、カメラを前にして、子供たちの姿や表情を見ることができないことに少し戸惑いもありました。しかし、子供たちにとって声だけの放送朝会より、話す人の顔を見ることが出来る朝会の方がよかったです。また、児童集会や自動車工場見学、ゲストティーチャーを招いてのパラリンピック教育などもリモートを活用しました。直接対面したり体験したりしないと味わうことができないこともありますが、今後、全児童にタブレットが導入され、ICT機器の利活用が必要となります。利活用にあたり検討していかなければならないこともありますが、対面授業のよさを大切にしながら、できることから取り組んでまいります。

以前、「当たり前が当たり前」であることを学校だよりに書きました。学校は勉強をするところですから、子供たちにとって分かる授業であることが当たり前であること。友達と仲よく遊び、良好な人間関係を築けることが当たり前であること。元気に登校した子供たちが学校で安全に生活を送り、元気に帰宅することが当たり前であること。このような「当たり前が当たり前」であるためには、学校や子供たちは多くの方々を支えられています。「自分たちがしてもらえることが当たり前」「権利があるから当たり前」と思うのではなく、支えていただいていることに感謝の気持ちを忘れないことが大切です。感謝について考えることにより今度は自分が誰かが困っていたら、協力してあげようとする思いやりの心を育むことにつながるのではないのでしょうか。そのためにはまず、私たち大人が、相手の思いを受けとめ、感謝の気持ちを姿勢で示していくことが必要です。

この時期、今年の自分を振り返り、新年に向けて気持ちを新たにするとともに、改めてお世話になった方々に感謝の気持ちをもつことができるようにしたいです。

明日から13日間の冬休みとなります。例年ですと年末・年始は家庭や地域において子供たちが日本の伝統や文化を理解したり、人とのつながりを考えたりするよい機会となります。また、子供と接する時間の長い冬休みは、ご家族と一緒に考え、話し合うよい機会ともなります。しかしながら今年は、これまでの生活様式と大きく変わるかと思いますが、感染防止に努めながらこの休みが、皆様にとって充実したものになることを願っています。

本年、本校の教育活動に対するご理解、ご協力に心より感謝申し上げます。どうぞ健康に十分留意され、よいお年をお迎えください。